

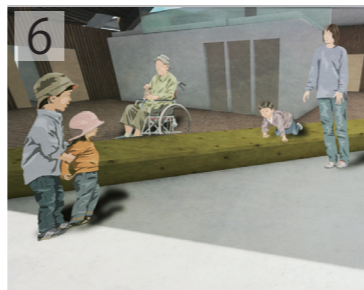


1 Living in a Mall
梅原 慎太郎

敷地：横浜市都筑区
用途：商業施設+住宅

都市的な構成であるショッピングモールに住居を挿入し、住むことと商業が混在した小さな都市の様な建築を提案する。そこを訪れる人々は都市を散策するような雰囲気を感じながら、様々なモノやヒトと出会う。

そこに住まう人々は、シェルターのように内に籠るのではなく、常にヒトやモノを感じ、パブリックとプライベートの境界が緩んだ都市に住まう感覚を得る。



6 看取る家族のエゴイズム
舟戸 さくみ

敷地：東京都 小金井市
用途：重度認知症高齢者が暮らす場

認知症を患った祖母の最期の日々が私の人生においてはかなり衝撃的な出来事だった。私たち家族が、本人のためになるかどうか悩んだところで結局答えは出ない。ならば、本人のためになると思いついて自己満足貫徹すればいい。そのほうが患者本人の死後家族が前向きに生きていくことができる。看取りや見舞いという行為を家族のエゴイズムと捉えながらもそれを肯定しあわよくば患者本人にとってもよい空間になることを期待しながら認知症高齢者の終末期のための空間を設計する。



2 都市農園の再構成
李 宗立

敷地：立川市
用途：公共施設

日本においては、娯楽としての農業の需要が高まる一方で、貸し農園、体験型農園などの施設は利用上に様々な問題点が存在している。そこでは、垂直農法を利用して都市部での農業と公共機能を複合した施設を設計した。農業における水循環の可視化、農業空間と一般空間との融合により、地域農業を振興し、地域交流を促すことを図る。



7 共棲
重政 幸一朗

敷地：東京都中野区
用途：複合施設

都市における自然と建築の関係性には、いささか疑問である。緑化という形で、建築や都市、人側がその利益を受けるばかりである。緑化を否定するわけではないが、建築がもう少しだけ自然を許容できれば、緑化以上のものを生み出せるのではないか。本提案では、前面の広場に対し建築を縦に伸ばし、双方、補完関係にありながらも、当建築が、より豊かな自然環境を生み出すことを意図している。



3 Ordinary Theater
増田 智久

敷地：埼玉県 熊谷市
用途：劇場

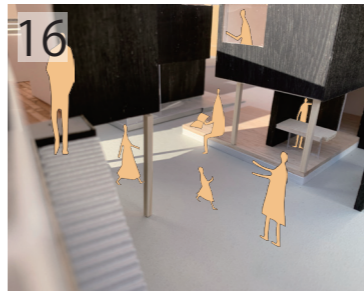
エンターテインメントコンテンツのオンライン化が進む中、実空間を伴う体験型エンターテインメントの魅力再認識させる劇場を提案する。既存の施設では特定の敷地を持っているにも関わらず、その地域の人々はそこでいつ何が行われているのか知らず、地域外から訪れた人々はその地域のことを知らずに帰る。そこで商業施設と劇場を複合することで地域の人々が日常的に利用し、地域外の人々も同時に利用することのできるカジュアルな劇場を目指す。



8 VICISSITUDE
星野 創

敷地：群馬県渋川市
用途：複合公共施設

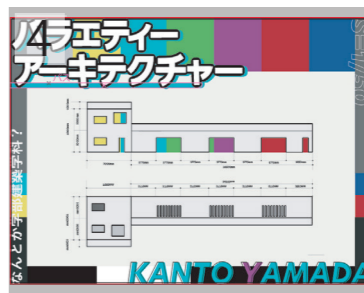
建築に要求される機能は時代や利用者によって全く異なる。ならば一つの建築が長く使われ続ける為には変化に対応できる可変性が必要である。本建築は中央のメイン棟とそれに付随する複数のサブ棟で構成された複合施設であり、需要に応じてサブ棟を換装することで施設機能をアップデートすることが可能である。すなわち固有の建築における時間的連続性を保ちつつ幅広い拡張性を備えた「可変する公共施設」である。



16 泊まれるまちびらぎの郵便局
作田 健

敷地：三重県志摩市
用途：郵便局+宿泊施設+交流施設

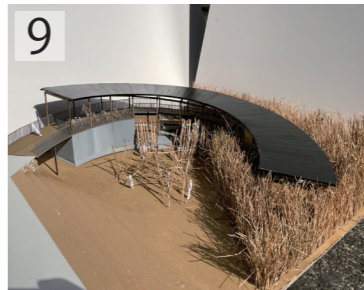
私の故郷である三重県志摩市は素敵な風景に満ち溢れた観光地である。しかしながらまちは衰退の一途を辿る。そこで「泊まれるまちびらぎの郵便局」を設計提案する。地元インフラの最後の砦である郵便局のやさやかな公共性にまちびらぎの機能を追加し、町民の一息つける交流施設を目指す。そこに観光客が宿泊し、お互いの存在が確かめられることで、志摩市にいることの誇りや憧れを改めて感じてほしい。



バラエティーアーキテクチャー
山田 貫登

敷地：岐阜県笠松町
用途：なし

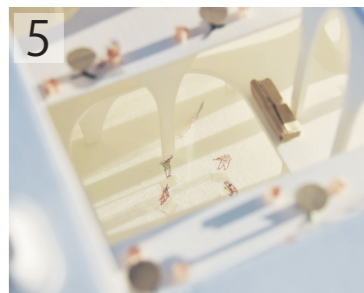
「どうして、模型は白で作るのですか？」その疑問が解決されないまま卒業はできないと思いついた卒業設計。建築物ができるまでの順序を逆にし、塗装から作った建物はどんなものになるのか、果たしてこれを建築と言っているのか。私の地元、岐阜県笠松競馬場にリアルタイムで起こった事件をノンフィクションで解いていくフィクションみたいな町おこし企画です。



9 霞ヶ浦のつくる風景
廣瀬 貴大

敷地：茨城県：霞ヶ浦周辺
用途：休憩所・カフェ等

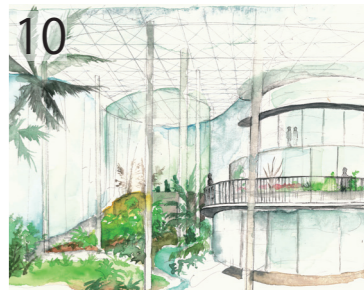
霞ヶ浦を取り巻く風景の表層しか見て取れない現在の観光の背景には、他では見ることのできないような地域性のある資源があります。うちの人のみで共有される、見慣れすぎて当たり前となっているその地域特有な風景を、私というヨソモノが建築に取り込み、魅力化することでそれらに価値を与えることができるのではないのでしょうか。小さな風景の集積が大きな風景となった時、建築は完成します。



5 人と建築がおりなすシンフォニー
富士 輝

敷地：群馬県高崎市
用途：複合施設

建築がおおらかであること。それは人が自ら居場所を創りだせることそして人々や内外にゆるやかな関係が生まれること。私はそんな建築をつくりたい。また「音楽」は活動と密接に関わるなくてはならない存在だ。音を奏でる人と建築が相互に空間を規定し合うとき、新たなシンフォニーが生まれるのではないだろうか。「音楽のあるまち」高崎に音楽を核とした複合施設を提案する。



10 Botanical Architecture
澤田 はるの

敷地：神奈川県川崎市
用途：研究所

基礎研究分野が資金的に苦しい立場であることや、研究者を志す人が減少している問題は深刻である。世間において研究への理解が深められていないことや、良い研究環境がないことに原因があると考えられる。本設計は我が国における基礎研究分野が抱える問題を解決する研究所である。意匠に植物の形態を用い、これからの新しい研究環境を植物を対象とした研究所の設計によって提案する。



11 海のまちの緩和ケア病棟
飯田 杏珠

敷地：茨城県北茨城市
用途：緩和ケア病棟 訪問看護ステーション

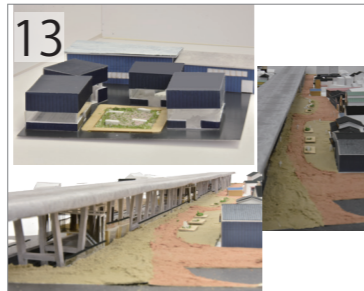
最期の1ヶ月をどのように過ごしたいですか。緩和ケア病棟の平均滞在日数の1ヶ月を、今まで住んできたまちでその人らしく過ごすことのできる新たな緩和ケア病棟を提案する。患者には車椅子からの空間体験をメインとした場所、患者家族には同じ状況の相談相手がいれば心身の負担を減らせる空間、医療従事者にも配慮した安らぎのある空間、地元で家族旅行をしているような時間を過ごすことのできる場所を目指す。



12 通り道の暖
服部 佳聖

敷地：札幌市営地下鉄 真駒内駅前
用途：駅前広場

豪雪地域である札幌市に位置する、人々が暖をシェアする新たな駅前パブリックスペースの提案をする。バス停や交番などの駅前に位置する建築物を、気軽に暖を取りながら佇めるように街に開くことで、積雪寒冷地の過酷な環境（寒さ、雪、風）から人々を守り、地域住民や観光客などが冬の風景を味わいながら、思い思いの時間を過ごすつながらる場所となる。



13 八帖物語
都築 猶哉

敷地：愛知県岡崎市八帖町
用途：観光案内所他

本設計においては、愛知県八帖町に位置する八丁味噌を製造する二社の蔵周辺において三つの計画を行う。(1) 合資会社カクキュー前の敷地の条件付きフルモール化およびストリートの無電柱化 (2) 愛知環状鉄道高架下の敷地の活用 (3) 株式会社まるやの工場見学待合室の改善および多用途化 これらの計画をもって、活気あるストリートの創造を目指す。



14 未来に残る原風景
遠藤 嵩尚

敷地：横浜市港北区綱島
用途：文化施設・道

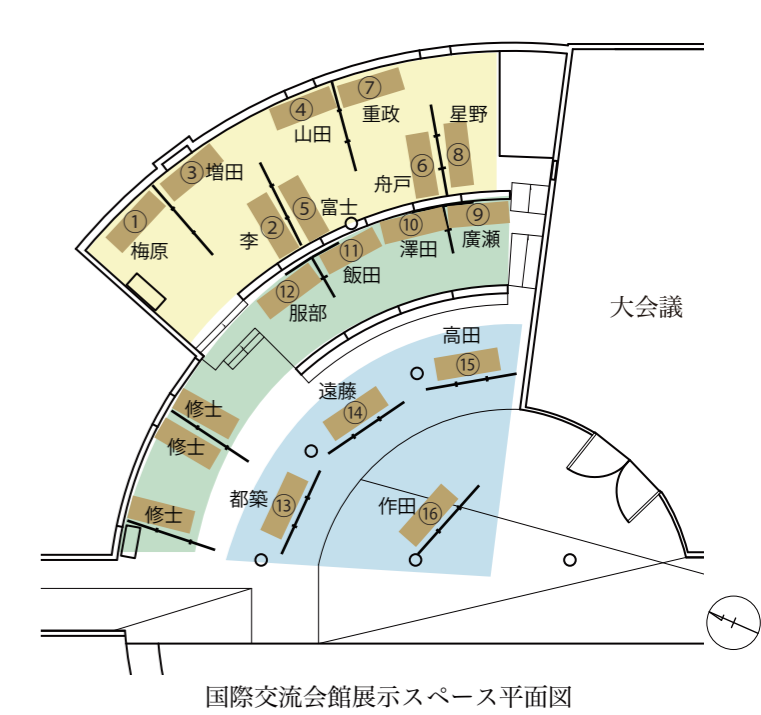
再開発は街に対して大きな利便性をもたらすが、その代償として、街にある歴史的な遺構や、文化施設は次々に取り壊され街の風景は均質なものになっていく。本設計では、その街がもっていた固有の文化を原風景と捉え、点在する3つの文化的背景を持つ敷地から新たなミチを設計する。再開発に向かう都市の姿と重層的な文化の歴史をもつ街の姿を共存関係に持ち込むことで新たな道の提案を試みる。



15 イエガイク
高田 典子

敷地：東京都墨田区京島三丁目
用途：リビング、土間、縁側

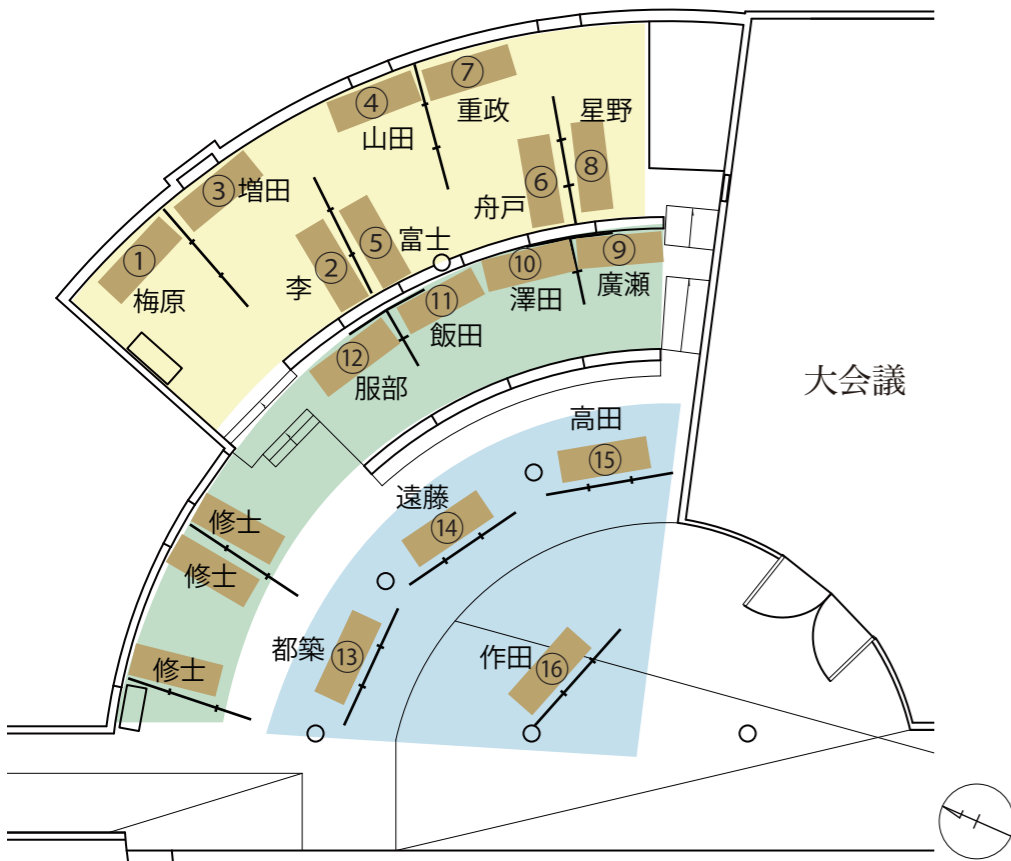
大きな敷地に大きな建物 かつこいいデザインで注目を浴びるものいけど、もう少し小さなスケールでそこに人の目線になって建築を考えたい。全部を新しくしなくても、今あるものに目をむけてその中になんだか楽しい空間が作れたら、きっと今あるものももっといいものになるだろう。住戸の一つの個室、道を廊下、街区一つをイエとみて行う、「イエのリノベーション」を提案する。



国際交流会館展示スペース平面図

令和二年度東京都立大学
卒業設計展 作品タイトル一覧

- ① Living in a Mall
- ② 都市農園の再構成
- ③ Ordinary Theater
- ④ バラエティーアーキテクチャー
- ⑤ 人と建築がおりなすシンフォニー
- ⑥ 看取る家族のエゴイズム
- ⑦ 共棲
- ⑧ VICISSITUDE
- ⑨ 霞ヶ浦のつくる風景
- ⑩ Botanical Architecture
- ⑪ 海のまちの緩和ケア病棟
- ⑫ 通り道の暖
- ⑬ 八帖物語
- ⑭ 未来に残る原風景
- ⑮ イエガイク
- ⑯ 泊まれるまちびらきの郵便局

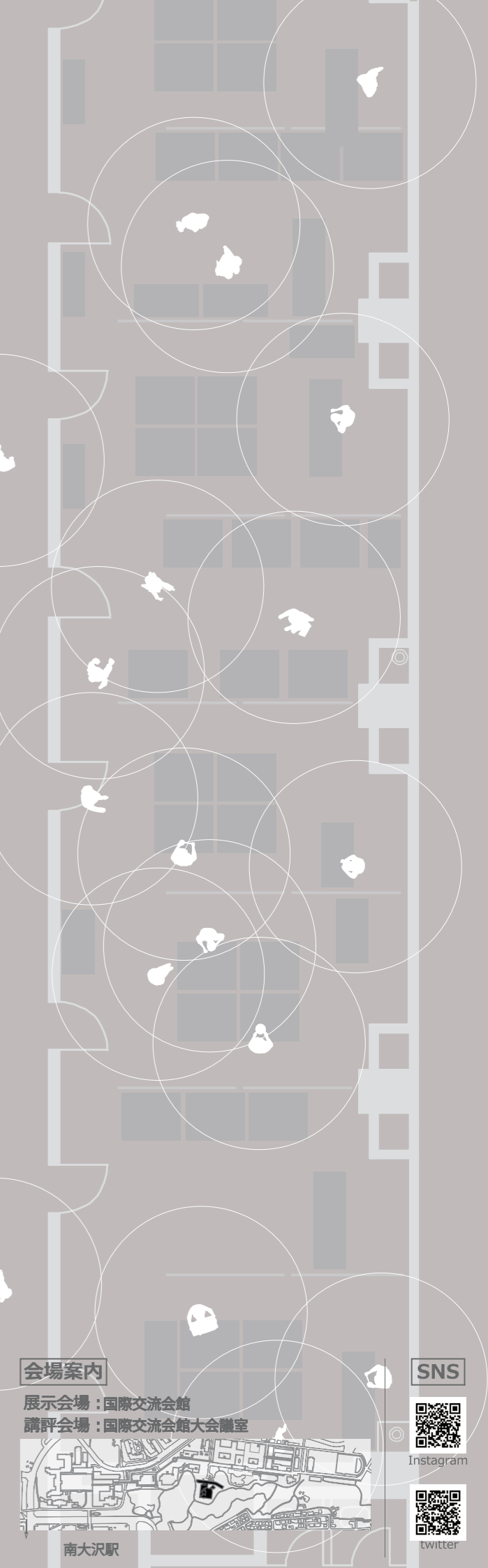


国際交流会館展示スペース平面図

DIPLoma WORKS

TMU

卒業設計展



展示期間

2/6(土)~2/14(日)

学内講評会

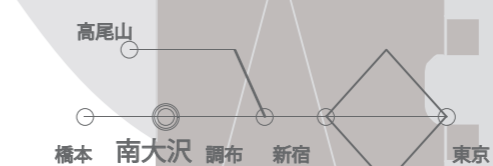
2/8(月)

八雲講評会

2/14(日)

アクセス

京王相模原線 南大沢駅から徒歩 15分



会場案内

展示会場：国際交流会館
講評会場：国際交流会館大会議室



SNS



学内講評会

日時：2021年2月8日(月) 9:00~18:00
(午前：ポスターセッション、午後：議論)
会場：国際交流会館大会議室

ゲストクリティック3名 (敬称略)

岡部 憲明
(岡部憲明アーキテクチャーネットワーク代表)
林 千晶
(株式会社ロフトワーク代表取締役)
西澤徹夫
(西澤徹夫建築事務所代表)

八雲審査会

日時：2021年2月14日(日) 10:00~18:00
(午前：ポスターセッション、午後：議論)
会場：国際交流会館大会議室

審査員6名 (敬称略)

門脇 耕三 (2000年卒)
(明治大学理工学部建築学科准教授
アソシエイツ株式会社・
一級建築士事務所 パートナー)
原浩人 (2002年卒)
(ハラヒロト建築設計事務所)
品川雅俊 (2005年卒)
(株式会社AS/パートナー)
梁井理恵 (2007年卒)
(株式会社オンデザインパートナーズ/
アヤトリデザイン)
森創太 (2007年卒)
(Nmstudio共同代表)
間部賢太郎 (2011年卒)
(株式会社三菱地所設計)

司会：佐々木 龍郎
(株式会社 佐々木設計事務所)
事務局：鹿内 健
(Sデザインファーム株式会社)
富永 大毅
(株式会社TATTA)
廣瀬 健
(株式会社HOUR-Design)

memo